

第19回男子アジア選手権

2020年1月16日～27日 クウェート

試合結果報告

1 月 18 日 (土)

| JPN | VS | QAT(カタール) |
|-----|----|-----------|
| 17 | 前半 | 16 |
| 11 | 後半 | 20 |
| 28 | 合計 | 36 |

個人得点

| No. | ポジション | 名前 | 前半 | 後半 | 合計 |
|-----|-------|----------|----|----|----|
| 3 | RW | 柴山 裕貴博 | | | 0 |
| 10 | LW | 杉岡 尚樹 | | | 1 |
| 12 | GK | 岩下 祐太 | | | 0 |
| 13 | PV | 笠原 謙哉 | | | 0 |
| 14 | CB | 北詰 明未 | | | 2 |
| 15 | LB | 部井久アダム勇樹 | | | 3 |
| 16 | GK | 甲斐 昭人 | | | 0 |
| 18 | LB | 成田 幸平 | | | 4 |
| 19 | RB | 徳田 新之介 | | | 5 |
| 20 | RB | 渡部 仁 | | | 2 |
| 21 | LW | 土井レミイ杏利 | | | 2 |
| 25 | RW | 元木 博紀 | | | 0 |
| 27 | PV | 玉川 裕康 | | | 1 |
| 31 | LB | 吉野 樹 | | | 3 |
| 33 | CB | 東江 雄斗 | | | 5 |
| 43 | PV | 吉田 守一 | | | 0 |
| 合計 | | | 0 | 0 | 28 |

戦評

アジア選手権2戦目の相手はカタール代表。多くの帰化選手を揃え、近年のアジアハンドボール界を席卷してきたチーム。試合前に北詰を新たにメンバー登録。

日本は昨日の中国戦と同じ布陣で臨む。GKに岩下。笠原、成田をセンターDF、2枚目に渡部と吉野、1枚目に元木と土井を配置した「6-0DF」でゲームスタート。攻撃も昨日と同様にプレーメーカーに東江、渡部と吉野がバックコート、元木と土井がサイド、ポストに笠原を配置。

試合開始、好守から吉野の速攻で先制点。その後カタールの個人技で失点を重ねるが、日本も東江の7mTや渡部のミドル、土井のサイド、岩下の好セーブなどで付いていき、一進一退の攻防が暫く続く。前半14分過ぎに部井久のディスタンス、東江の速攻が連続で決まり、8-8の同点になった場面でカタールはタイムアウトを請求。タイムアウト明け、日本はこの日に新たにメンバー登録された北詰がコートに立つ。

前半20分過ぎ、部井久のディスタンスでリードを奪い、その後、徳田のディスタンス、吉野の速攻でリードを2点に広げる。直後に点差を1点に縮められるも、カタールの退場に乗じて徳田のカットインで再び2点差にリードを広げる。

相手エース9番CAPOTEに反撃を許し同点にされるも、後半終了間際に徳田のカットインで1点勝ち越して前半を終了する。

ハーフタイムでは、ディフェンスの修正点と効果的なオフェンスのコンビネーションについて確認して後半に臨む。

後半、土井のサイドシュートで先制、再びリードを2点に広げる。しかしその直後からカタール10番MARZOの高打点からのディスタンスを止めることができず、後半5分過ぎに逆転を許してしまう。ここで日本はDFシステムを「5-1DF」に変更し、相手ディスタンスを封じる作戦に出る。岩下の好セーブや、パワープレー時の玉川のポストなど、必死に引き離されないようにしていた日本は、後半12分過ぎにはハーフタイム時に確認したコンビネーションから北詰が素晴らしい得点を決めるが、カタールの体格を生かした力強い個人技を防ぐことが出来ずに徐々に点差を広げられていく。

その後もチャンスは創出するものの相手GK16番ABIDIの好セーブに合うなどして得点を加算できない。日本はタイムアウト直後から7人攻撃を仕掛けて状況の打破を狙うが、ミスを連発してしまい効果的な攻撃が繰出せず、結局そのまま流れを引き戻せずに28-36で敗戦となった。

明日の休息日を挟み、明後日からはいよいよメインラウンドがスタートする。初戦の相手はグループリーグC1位のサウジアラビア。メインラウンド突破・準決勝進出に向けて大切な1戦となる。現在可能な最高の準備をしてサウジアラビア戦に臨みたい。

報告記入者 :

舍利弗 学